

「大人が支える！インターネットセーフティの推進」

秋田県教育委員会

スマートフォン等の普及により、子どもたちを取り巻くインターネット環境は大きく変わり、低年齢化や長時間利用の問題に加え、「ネットいじめ」や犯罪等、様々なトラブルに巻き込まれる危険性が問題となっています。秋田県教育委員会では、これを家庭教育支援の課題の一つととらえ、社会教育施策として、平成25年度より、社会全体で子どもたちをインターネットによる有害情報やトラブル等から守り、インターネットを健全に利用できるよう、安全で安心な利用環境を整える「インターネットセーフティ」に、複数の取組方策により、民間等と協働し推進してきました。



【実施主体】 秋田県教育庁生涯学習課

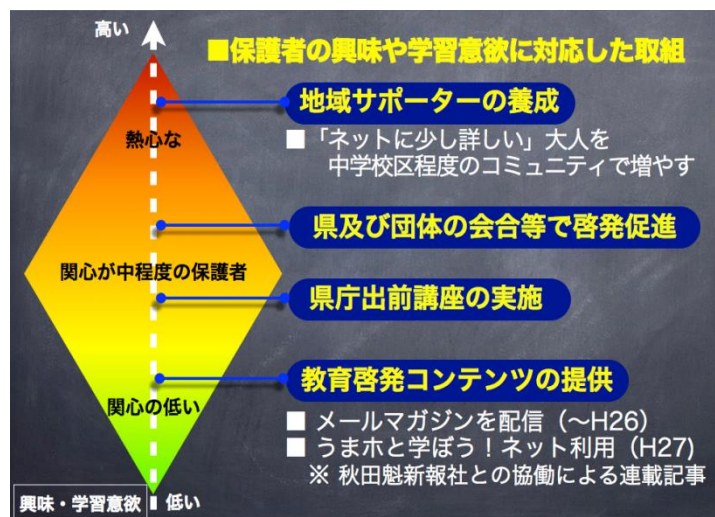
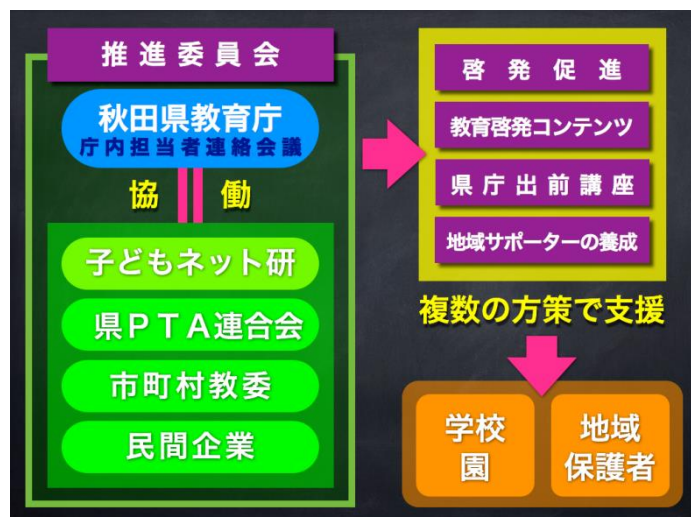
【協働】

- 一般社団法人セーファーインターネット協会
- 子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)
座長 お茶の水女子大学教授 坂元 章
- 秋田県PTA連合会、各郡市PTA連合会、各市町村教育委員会
- 民間企業(羽後日産モーター株式会社、秋田魁新報社)

インターネットセーフティ
PRキャラクター「うまホ」

平成26年、全県の小・中学生454名の応募の中から、秋田市立山王中学校の柴田陶子さんの原案を採用し誕生しました。「うまくスマホ等を使ってほしい」という願いが込められています。
啓発リーフレットやPRグッズ、PRカー等に利用し、保護者等への啓発、取組の周知に広く活用しています。

1 事業の推進体制と取組方策



民間による専門家会議「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」（以下「子どもネット研」）の他、秋田県PTA連合会、民間企業、市町村教育委員会等との協働による体制づくりが大きな特徴です。

県は、事業の計画立案、市町村や学校等との調整、進捗の管理、基礎講座（出前講座）等を担当しました。
子どもネット研は、教育啓発コンテンツの作成や実践講座（地域サポーター養成講座）等を担当しました。

2 主な取組方策

「ネットに少し詳しい」地域サポーターの養成

■中学校区程度のコミュニティに「ネットに少し詳しい」大人を増やすモデル講座の実施

- ◎平成27年度までに9地区18会場でモデル実施
平成25年度…3地区6会場で延べ270人が受講
平成26年度…3地区6会場で延べ296人が受講
平成27年度…3地区6会場で延べ339人が受講

講座の特徴 講師・テキスト等…子どもネット研

- ◎市町村教委、学校・園、PTAで主体的に運営
- ◎事前・事後のアンケートで地域の変容をみる
- ◎120分×4回の連続講座で背景・構造を理解
- ◎受講者からの質問に回答・解説
- ◎講座期間中、受講者による取組実践



【講座実施の流れ】

子どもたちのインターネット問題を正しく知ろう

人気サービスの実際と理想のネットデビュー

保護者管理機能と家庭での取組ヒント

受講者による取組実践

1ヶ月程度の期間をおく

取組実践の共有と地域での協働

地域で「ネットに少し詳しい」存在に！

地域に「少し詳しい」大人を増やすねらい

子どもたちのインターネット利用の問題は、しつけや基本的生活習慣と同様に、家庭教育の重要なテーマの一つです。この問題に、保護者や地域の大人が関心を持ち続けられるよう、継続的な教育啓発とともに、地域や社会とのつながりの中で、子どもと向き合える「仕組みづくり」が必要となります。

地域サポーター養成講座は、顔の見える範囲内に「ネットに少し詳しい」大人を増やすことを目指しています。「ネットに少し詳しい」大人とは、家庭・地域・学校で、「インターネット利用の問題も普段の家庭教育の課題の一つだよ」と教えてくれたり、困ったときに相談に乗ってくれたりする「地域の核」となる人材です。したがって、受講対象はこの問題への学習意欲や関心の比較的高い方に絞っています。

また、講座内容は、問題の背景や基礎知識等が十分に得られるよう、発展的なものとし、実機体験やグループワークも取り入れた連続講座としています。



こんな取組成果が見られました！

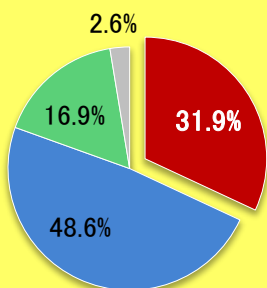
- 事前・事後のアンケート結果から、「地域で相談できる相手が増えた」（下グラフ）、「家庭内での親子の対話が増えた」、「保護者間での情報交換が活発になった」など、複数の項目で、変容が見られました。
- 自主企画講座の企画・開催、PTAでのルール作りなど、講座修了後に受講者の行動変容が見られました。
- 地域密着型手法のモデルとして、全国規模のフォーラムをはじめ、各地で紹介されました。

●地域サポーター養成講座の取組成果 ～地域で相談できる相手が増えました～

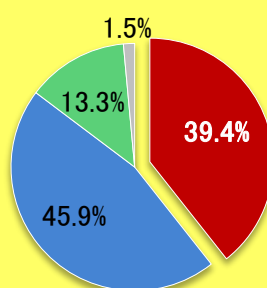
【事前・事後アンケートより】

(問) お子さんのインターネット利用について、困った時に相談できそうな「少し詳しい人」は、お住まいの地域にいますか？

平成27年度地域サポーター養成講座
開催地域の中学生保護者へのアンケート
結果(事前:7月/事後:12月)



【事前調査結果(n=692)】



【事後調査結果(n=687)】

■ いると思う (思い浮かぶ)

■ 周囲に聞けば見つかるかもしれない

■ 身近にはいないと思う

■ 無回答

学習機会の提供(出前講座)

講座の特徴・実績等

学校やPTAからの要請に応じて、子どもたちの健全なネット利用をテーマに講座を実施しています。講師を秋田県教育委員会の社会教育主事が務め、一講座60～90分で行います。子どもたちを取り巻くネット環境、人気のサービスとトラブルの実際、健全利用のためのポイント、家庭や地域での取組などについてお話しします。

小・中学校からの要請が7割ほどで(※グラフ1/H27年度)、保護者とともに児童生徒も参加する講座が増えています(※グラフ2/H27年度)。

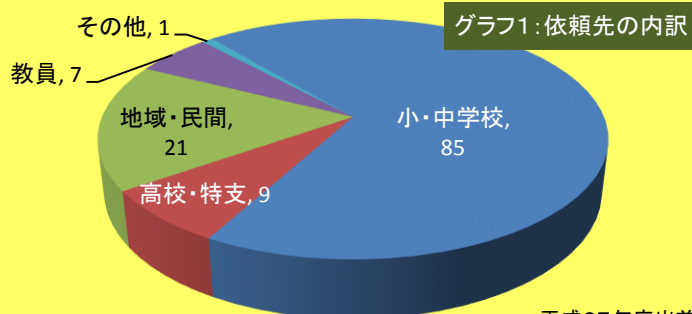
平成27年度は21市町村でのべ123回、14,505人を対象に実施しました。

また、羽後日産モーター株式会社の協賛により貸与された、電気自動車「リーフ」にPRキャラクター「うまホ」をラッピングした「うまホ号」(※右上写真)で、出前講座に出掛けています。

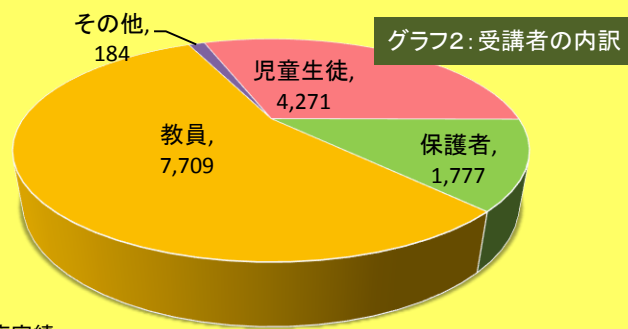


「うまホ号」

●出前講座の要請について～依頼先と受講者の内訳～



グラフ1: 依頼先の内訳



グラフ2: 受講者の内訳

平成27年度出前講座実績

秋田魁新報社との協働による啓発

平成27年6月より、全30回にわたり「秋田さきがけ」の「くらし・まなび」欄（毎週水曜）に啓発記事「うまホと学ぼう！ネット利用」を連載しました。

保護者が子どもと一緒に、安心・安全なインターネット利用について、楽しく分かりやすく学べるよう、PRキャラクター「うまホ」が聞き手となって、毎回、テーマに沿った質問や疑問に生涯学習課が答える内容となっています。

掲載記事は県公式HP「美の国あきたネット」でも公開していますので、ぜひご活用ください。

掲載記事の見出しを少しご紹介します！

- 10代はネットをどう使っているの？発信・参加型が主流(第1回)
- 保護者はどの程度管理すればいい？段階的に制限緩和を(第4回)
- 匿名だと個人は特定されない？発信に責任を持って(第10回)
- ラインのトラブルを防ぐには？普段の会話を大切に(第16回)
- 大人はまずどうサポートするべき？一緒にサイトを閲覧(第22回)
- 家庭でのルール作りのコツは？納得いく理由を示して(第27回)
- 家庭だけで頑張らなくていい？地域全体で見守ろう(第30回)

* 記事やガイドブックをご覧になりたい方は、 **大人が支える！** で検索

うまホと学ぼう！ネット利用 ②9



適切なネット利用、身に付けるには？

うまホ 子どもが適切なネット利用の仕方をするためには、家庭でポイントになること、適切な利用時間を守るとか、保護者が見守るのか？

保護者がいい手本に

保護者自身もネット利用や生活習慣を見直すことも大きなポイントなんだ。

うまホ ほーっ。子どもは親の背中を見て育つ、って言うものね。

生涯学習課 そう、子どもは保護者をよく見ているよ。子どもに「ゲームなんかやめて早く寝なさい」と言っておきながら、遅くまでスマホをいじったり、

か、一度見直してみてもいいね。大切なのは、子どもと一緒に過ごす時間。時間を決めて一緒にゲームを楽しむとか、食卓に上ったライ麦パンの原料はどの国で多く作られているかネットで調べてみる、とかね。ネットは親子がコミュニケーションを楽しむツールにもなるんだ。

子どもが話し掛けているのにスマホ操作を優先したり、なんてことがないかな？ 振り返って思い当たることがあれば、保護者も変わる必要がある。子どもが一番近くにいる大人として、いいお手本にならしてほしいんだ。

家庭で過ごす時間をどう使う

平成27年12月16日(水)秋田さきがけ「くらし まなび」欄に掲載

この記事をもとに、『学校で活用できる 大人が支える！インターネットセーフティガイドブック』を、平成29年3月に発行しました

3 平成28年度以降の取組について

平成25年度からの3年間で、モデル的な取組により一定の成果を得られましたが、インターネットセーフティは家庭教育の重要な取組課題です。今後も、子どものインターネット健全利用を地域ぐるみで支えていくためには、地域人材の養成とネットワークづくりによる持続可能な体制づくりへの支援が必要です。

秋田県教育委員会では、これまでの成果と課題を踏まえ、平成28年度以降も次のような取組を継続して実施しています。

取組のイメージ

★持続可能な体制づくりを支援する

★民間やPTA団体、市町村等との連携・協働

★地域人材の養成とネットワークづくりの促進

★保護者や教員等を対象とした教育啓発の継続

●推進体制

- ・ 運営協議会の開催
- ・ SIA／子どもネット研等との協働
- ・ 市町村教育委員会との連携

●青少年教育施設を活用したネット依存対策事業

- ・ うまホキャンプ【H28～】
ネット依存傾向にある児童・生徒を対象に、【自然体験活動＋認知行動療法】の長期宿泊体験プログラムを実施
※H29年度のメインキャンプは県内外から12名が参加

●ネットパトロールと健全利用啓発事業

- ・ ネットパトロール SIA委託【H29～】
・ 県内児童生徒のインターネット利用行動の抽出調査
・ 不適切な利用行動で緊急性の高い事案は個別対応
- ・ 啓発講座

●人材養成

- ・ 地域サポーター養成講座
- ・ フォローアップ講座
- ・ 指導者認定試験(SIA委託)【H28～】
- ・ 指導者等研修会【H28～】

